

【特別研修・在外研究成果報告書】

研究者	所属・職位	氏名
	文学部史学科・教授	坂野 正則
研究課題	近世ヨーロッパ宗教社会史の研究／ヨーロッパ近世都市史研究	
研究期間	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日 (365 日間)	
主な研究機関 又は場所	国内：上智大学、在外研究：コート＝ダジュール大学／ソルボンヌ大学（フランス）	
研究成果の概要		
<p>坂野は、2022 年 1 月に都市史学会内部に研究ワーキング・グループ「都市における文化＝空間構造から捉える全体史」（文化＝空間構造論 WG）https://sites.google.com/view/urbancultureandspace を立ち上げ、この研究組織を基盤としながら、特別研修・在外研究を実施した。活字による研究成果の公開は日本国内で実施し、口頭による研究成果の公表は海外において実施した。本年度の研究成果の公表は、次年度以降も国際的発信も含めて継続していく。</p>		
<p>【特別研修による国内における研究活動】</p>		
<p>◎研究成果の刊行</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・坂野正則「コラム グローバルヒストリーの触媒としてのパリ外国宣教会宣教師」『岩波講座 世界歴史 第 11 巻 構造化される世界』（岩波書店、2022 年）。 ・坂野正則「近世フランスにおける「テロワール」」赤松加寿江・中川理編『テロワール』（昭和堂、2023 年）、57－75 頁。（印刷中） 		
<p>◎研究会の立ち上げと運営（宗教モニュメント研究会、日本カトリック大学・短期大学連盟カトリック</p>		
<p>学術奨励金「研究助成金」2022 年度「「遺産」から読み解くカトリックの信仰と空間に関する学術研究プラットフォームの構築」（研究代表者：坂野正則）と連携して実施）</p>		
<p>第 1 回研究会（2022 年 5 月 27 日）：開催にあたって（坂野正則）／建築と物質性の観点から宗教モニュメントを考える 中世のゴシック建築について（加藤耕一）／「バロック」とカトリック改革の教会建築／長崎の教会建築（中島智章）</p>		
<p>第 2 回研究会（2022 年 7 月 14 日）：『聖務の理』における教会建築空間の扱い マンドのドゥランドゥスと典礼注解書の世界（坂田奈々絵）</p>		
<p>第 3 回研究会（2022 年 10 月 20 日）：中世ステンドグラスの銘文について（高野禎子）</p>		
<p>第 4 回研究会（2022 年 11 月 22 日）：宮廷礼拝堂としてのパリのサント＝シャペル ー中世ドイツの二重礼拝堂が担う王権表象の変化ー（岩谷秋美）</p>		
<p>総括研究会（2023 年 3 月 30 日）：坂田奈々絵／坂野正則</p>		

【在外研究による海外（ヨーロッパ）における研究活動】

◎研究発表

国際学会での発表：Masanori SAKANO “Frontier Character and Viticulture at Riverfront Cities in Early Modern France: Saumur and Metz”, European Association of Urban History Antwerp Conference (Antwerp, 1st September 2022).

<https://www.uantwerpen.be/en/conferences/eauh2022/programme/scientificprogramme/specialistsessions/s23/>

国際共同研究（「18世紀中葉における建築と都市文化：ヨーロッパと日本との比較研究」）のキックオフ講演：Masanori SAKANO “Trajectory of joint research about urban and territorial history between Occidental history and architectural history in Japan with France as research field”, 1st Research Meeting with Centre de la Méditerranée modern et contemporaine of the Côte d’Azur University: “Architecture et Culture urbaine au milieu de XVIIIe siècle: étude comparative entre l’Europe et le Japon”. (Nice, 5th September 2022).

◎史料調査

コート＝ダジュール大学およびニース市内における近世ニース都市領域史関連の資料収集と目録作成
パリ国立図書館におけるポール＝ロワヤル修道院関係の文書調査
IRFA(フランス＝アジア関係研究センター)における17世紀パリ外国宣教会関連文書調査
メヌ＝エ＝ロワール県文書館（アンジェ）におけるオラトリオ会関連文書の調査
ソミュール市立文書館におけるオラトリオ会関連文書の調査

◎現地巡検

リヴィエラ沿岸地帯の都市領域調査（アルプ＝マリタイム県）
ロワール河谷地帯の宗教文化＝空間構造の調査（ソミュール）
パリ・ノートル＝ダム大聖堂の再建現場の定点観測（構内での調査は断念）

◎海外研究者との学術交流（上智大学への招聘も視野に）

コート＝ダジュール大学地中海近世・近代史センター（CMMC）
ソルボンヌ大学：アラン・タロン教授
ノートル＝ダム大聖堂科学連盟（Association des scientifiques de Notre-Dame）